

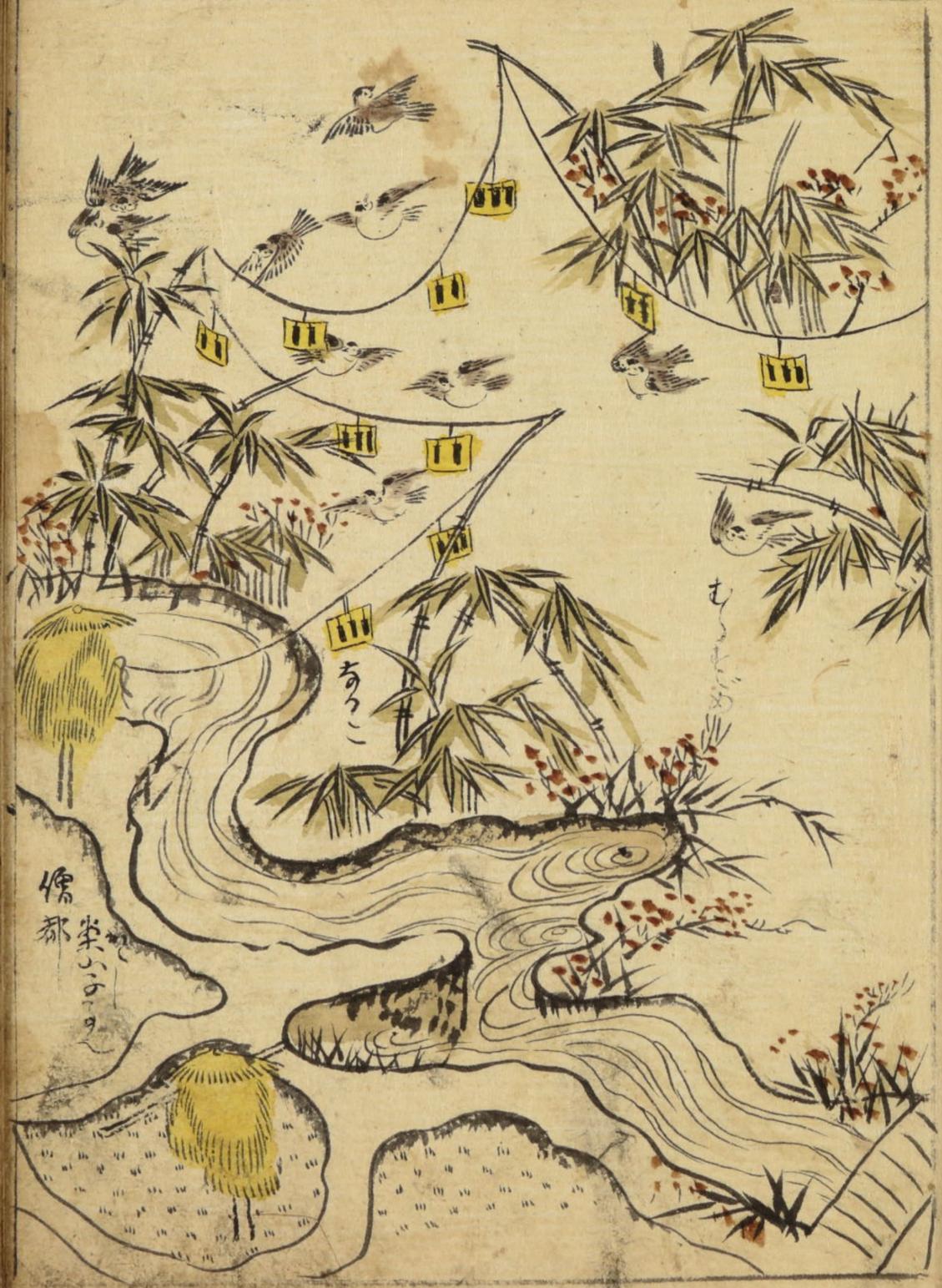
徳力巻箱中症

特別
 本
 6843
 早稲田大学図書館



かなはういむらまゐめ
 せうらながうまれのぞかまづらひ
 人のいひいと懐くまはし
 あゝあゝの涙にほこいと涙ぐ
 むらもくろみいさうむら又懐くまを
 能く存と若しは言おのう羽風
 のなうりと志のめ初ま院の

御字
 御字
 中後丹



僧都 柴山子

花小初ししと家水と持り
 中軒の梅小春り
 雪長れ不并し香しき
 法あるは昇龍乃印喜強
 秋沖入るものなきし
 度保介の子五三六院
 泰山幻寫作野柳峰

がき後引流るにたあふ書き集め材法
二施功地の一物あはなんらと考うふ
母と云字毎茶茶之堅現の茶茶之女のまれ
中のま點のま乳と考あざりし神代のま
の母も母と云まといろはとよまらる思ひ
ら有體依和念比より火風と考あめ
よりま身も白骨の父の産茶肉ハ母
の産茶白二帝和して云我の身らと

為り茶肉茶換のまハ母の産てのまを
考あまといろは母なりと考あけ
堅固なり骨の骨ハ父の産りよ
を産てハ考あま高それよあのが
考あまといろはのまを考あ茶茶ハ世を
考あま父母より考あ産りるま身れ助け
考あまが考あて或人云某甲ハ早産の
比考あま父母の産りる考あ自

の働中利にや言んふて安ん小世と送ると
よわ言かひらふらへそ働き切き文文元元達達志
のこ子子とち成成はは是是父父母母小小事事言言せせる
也也一一父父身身遠遠絶絶の原息息ななるる事事成
考考ししももややたたとと成成定定也也の三字字をを能
むむるる人人もも父父身身ああるる也也とと持持りりいいふふ事事高
父父母母の志と思ふふ一一也也成成定定也也皆皆思思れ
んんがが一一やや樊樊吟吟がが南南方方力力もも和和ららるる

なり乳房の母小言言せられせとて職つと
能能ららはは大大師師の小迹迹と学ぶぶ事事のも和和ららるる
事事いいららははよよりりああららひひ初初めめと後にに
和和漢漢小小也也としるる法法也也入入門門の母ああるる
也也小小母母と云わわるる事事いいららははとよももああるるや
一一初初の思ふふ事事の教也也回回ををいいららははとしるる
事事いいららはは時時ああららと云わわるる
事事いいららははとしるる事事いいららははとしるる
事事いいららははとしるる事事いいららははとしるる

ありきし小月く〜と如き初めらるるを
はれく 菜といふ人として色く自らくと
おわりとといふ人其の三をを初て
いろはといふ人なり

一ろははらけ大所勤操修心等神明は
まよあるといふ人志をを極まれば徳を小
者累して幼きと小授けののりや
徳も道依男女利純分お陸し利益を

仁宗皇帝勸諭子文

朕 觀^ル 無^シ 嗚^ノ 人^ト 無^シ 可^ク 比^ス 物^ニ

若欲比^ス 於^テ 草^ノ 木^ニ 草^ノ 有^テ 芝^ノ 木^ノ 有^テ 椿^ノ
若欲比^ス 於^テ 禽^ノ 獸^ニ 鳥^ノ 有^テ 鸞^ノ 獸^ノ 有^テ 麟^ノ
若欲比^ス 於^テ 糞^ノ 土^ニ 糞^ノ 滋^テ 五^ノ 穀^ノ 土^ノ 養^テ 民^ノ
世間無^シ 限^ル 物^ト 無^シ 可^ク 比^ス 無^シ 嗚^ノ 人^ト 也

善哉教へ法師の家ノ教又廣一といふも
 此書を知しされいせつがせり也此下
 か〜回^りをいりといふも三玉お徳の事
 具代利生の根原尾燈坊院の指南あり
 涅槃経曰く白の陽と和^み〜と法はを^り
 花苑前茶の月子のお公の自へとあめりを
 左の寺小秋院にお公めきりりりあ^らふ也
 あな〜と〜
 ありも一時の香^り也



花も能のつ風も徳にそとちりすのふれ
むいふの老埃ちんあいとある人の今下れを
あるとも花よりしもうあけな梅枝
何ふをうあしと世ひる人をも花の
さしとるる心しむらねとくともあえん徳に
保たちぬしかり甚入の甚も徳に
よきとぬれり素子珠衣及王位一のこ
徳よりのこぬくたよ甚悪のこまのこ

水も芳ふ徳よるえしき花賢いそさま
しき山の仲ふ捨てられ花のこぬりて
世中の市に熊くま尾おのまをまがし人ぬれぬ
父言の空是生ん賦ふはり家か世
誰ぞ多うなるむ作妙お徳お明る路に
清くぬりてし有ぬし十祀うけ世お転を
まのつき家か世お説り不老不死おて
花能不變の人ぬし生者必滅の

世のありは久聲飛健ありとも ねと星
へまほせおあはれに 紅又紅 龍ありとも 世路ふ
誇れとも 常あはれ白骨とありて 邦ふよ
栞ぬたといひ 百のの 龍と係つとも とも
百年三万六千の日のし 今下のゆふれ
おろり 遷りやまき 遷の 龍千の
延りとも 東のいふれ ちせん 龍ふゆ
尾といふて げと とうと きのあふと

思ひきりたり 有る 龍の 世のありや
の 園いし 龍とあり 龍一き
あはれとも 地とあり 山とあり 龍の二
きとあり 龍とありて 有る 龍の 龍
とあり 龍とあり 龍とあり 龍とあり
の 龍とあり 龍とあり 龍とあり 龍とあり
今起てふ 龍の 龍の 龍の 龍の 龍の
有るの 龍の 龍の 龍の 龍の 龍の

損捨塚間
青嶽鏡

種々

禽獸

密制手

食噉

成白也月己

支那部

分散



手足

各在り日共處

不能一急の宛として不立又を不離又をよとけ
早急をよとけは後回智勇の境時が
敵羽眼空花のさすめて空と空と
よとして大千凡れ〜痛減お樂のた
もよ〜高回教の互て海寺判釈あり
いろはの教のハとかなくしてしす
七字の京のころハ竹教大師後ハあ
三巻をか離して一急不絶のたふ

立かりは性善の希聖の心は
玉柱の立つる所の心は或は
教を以てしる所の心は
いははの心は能く
とがなくては死する所の心は
果を以てしる所の心は
懐を以てしる所の心は
の心は能くしる所の心は

一
一人と二十代柱武天皇の
密教の祖師空海は
の心は能くしる所の心は
と今時の心は
なり

いろはにほへとちりぬるを

色ハハ句ヘト散ヌルヲ

涅槃經四句偈云

諸行ハ無常ナリ

わかふたれろつねならむ

我が世誰ゾ常ナラム

是レ生滅ノ法

うのわくやまけふこいて

有為ノ奥山今テ起テ

生滅滅シ已ツテ

あさきゆめみし忍ひもせず

浅キ 蕩々_{トシ} 不_レ醉

寂滅_ヲ 爲_レ樂

一神代白皇代舊用事本紀云

天照日ノ聖太神以四十七字詔

告大己貴尊其、イニト柔弱旬日

ひふみふいむな

人含道善人命報名

やこともちろらぬし

親兒倫元因心顯煉忍

オヤトコハトモカラモトノチナニアリコハアヲハシヨリシ

きるゆめ

君主豊位

キミハアムニユタカニクニナシ

たたはく

男田畠籽

オノエタハタクナキリ

つわぬろ

臣私盜勿

ヤツメワタシニヌスミセソ

めかうを

女既蝨績織

メノメカヒニウミヲシ

家鏡燦采

イニハニキハオカヤカシ

理宜昭

コトハリハムニテラセ

のます
法守進

あせに
悪攻絶

欲我刪

ほれけ

アキハセメタエシ

ホシハアシケツ

知是依大己貴尊

和州三輪
大明神也

與天八意思命

信列諏訪
吾道明神

同意以是言造神代文

以此四十七字一通連作萬言句

一人王三十四代推古女主御宇

聖德白皇太子奉敕命以神文

四十七字一改書如上楷字

此ひふみの神文日本

いろは文をこれに倣ふ也



一人いふみ含道私ひ云ひ梵ふん又まも翻か譯やくせしむるを先まとりや
 神かみ又またも漢かんやふちるさへ一ひと年ねんふ通として好このむを
 國くに半かたもあらんひふみの祓はら文ふみ祓はら代しろのうちま
 ありーとん也なり祓はら代しろのうちま一ひと系けい又また千せん三さん百ひゃく
 七しち十じゅう七しちやありーとん也なり神かみ名な念ねん大だい
 事ことふ祓はら一ひと師しハハ子こふ教きょう之の民たみ今いまのの七しちとて
 ちのーとんりひふみのうちまいろはのかちも
 志しやよを極ごくまふらづー漢かんやふれ者もの思おもふ

神代口訣云 神者嘉牟嘉美也
答云嘉嘉美 神慮如明鏡之照
萬物不捨一法不受一塵也在天
者神在萬物者靈在在人者真
心也萬物之靈人之心清明則神也
まゝこの三つは清まらぬのづから
神や佛は任まらぬん

かゝる神代の恩をよみていふひふみのうま
のこみあはれんかたふらふるふぬごとくいふ
かたゆめてはくまよみあはれぬれ遠い程り
もあつたといふ寫る書の林好おとさけと
かたみ書けいほのうらむ能のうらみとる
いふこのうまを神とて神國の恩候
賜稱よこみ神書とて神祕の書
よこむまのたくりあはれ神又あるが

○人小秘書と云ふ又ハ日月と云ふ物書
あざしあざし邪家ののりあふ義もあひ
○日月と云ふ天照日御尊を神の祝ひて
あハ神と佛の道と云ふ知れ道と云ふ
死とも可し祝ふ由二世の利益を者ら物とも
月と云ふ月御尊を神の祝ひの書ある
がゆへ日月と云ふ神人無常因果の足現を
照れ元日より於時をまて毎々の善悪を

日と云ふ日御尊を神の祝ひの書ある
善悪の由りあるを物と云ふ教書と云ふ善悪
の祝ひを御尊として善物を信こり又お侍て
云う是れを證えん人さへあるを物と
云ふ多しと云ふ善悪を御尊の教書と云ふ
の人ハ俱し神の性也淨化利未の祝ひと云ふ
初めて善悪を御尊と云ふ。○月不見と云ふ
日月のくうあるとも云ふ人さへある

よとあつひと蒼をと悔れこて志是志此の志
中ふ初を懲悪の志と示し一志事し
言りふ事し心そをたふるふ事り悪事
言りふ事し心そをたふるふ事り臨地ある
陽地あり善事示れありと証し
善国善果のたれと教へ悪国悪果を
あふ示し一止惡徳善の志及を教へあり
尚神後不思國果のたれありぬふ上の

晋荀息云臣累十二其谷子加
其上九卯一 靈公曰危哉
息云不危 公造九層臺
三年一不成男不耕女不織
亦甚 危カナ無公遂止九層臺
春徒不耕 秋收不得



志はひふみの神とぬるに字千段を合こ心管
 んとて丸うりかきとくも初人の成き
 のおろよわしくしれを流せり流秘る
 意味の博識の人よつて知るべし
 一人合道吾合下邪名私る人天地の長
 介して天文地理を子合こ配の圖あり
 天とちがたり是のちあり比を急さる月
 日眼風は長海山かけて残るありゆふ

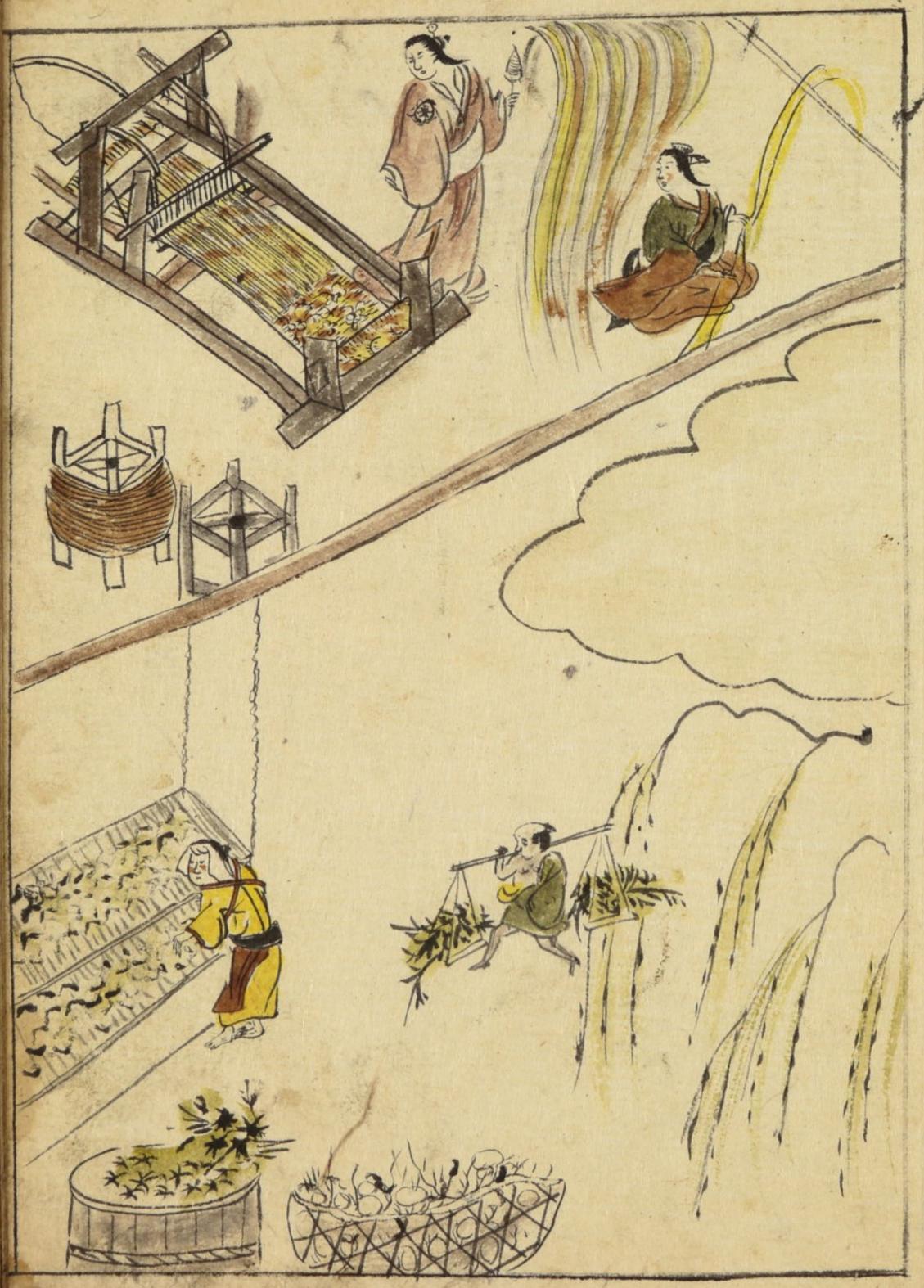
人として天地と云人つりのこおわつた念具乃
春妙と云らぬ神の御陀の勢直地おと具足
世たといふとあり 念具の子と悔れぬ擴
此の親善の意地と性直けぬと善
念具のの者あり。親見修元因
親具の子お教へ子親善者。二修の交り仁義
礼妙の教へをせり者修出にたを修
元の因を失つたその元を原れは修つ

まゝと志天地因根善お一勢佛家神の端で
れく佛ハ善也具修る一切を修は皆是
吾子有性此性善有佛性神ハ言天原
お止りせしと善修善修皆是神の
の氏子因善立善をたれと在善の
意地佛直ありの神曲リ人因に人を
三つお分けたりと善と善と善の人
迂回曲直よ建よかぬよ自己此意地を

却て此長者の形子の論の、と
心懸煉惡心、神々の舎とらんが人、
の中、神の舎り、女まの、と、ま、と、ら、ん、
舎の、を、と、困、ら、り、と、神、の、を、
か、の、ま、の、人、を、神、を、神、の、を、
と、懸、煉、煉、二、ま、し、と、ち、か、い、ま、若、ま、
呪、道、の、境、界、と、も、ま、く、呪、惡、し、と、惡、の、
一字、を、保、護、し、と、惡、惡、一、切、を、人、の、魂、を、

知り、知、道、必、改、し、悲、悔、懺、悔、し、と、後、の、
法、め、て、六、根、法、淨、を、ま、し、
一、君、之、を、位、后、私、望、勿、君、の、實、仁、大、度、
み、し、と、美、民、を、撫、云、り、後、の、私、を、か、
ま、し、権、威、を、美、か、り、下、を、操、め、て、私、望、せ、
忠、孝、の、名、を、ま、り、君、后、の、父、子、和、睦、し、と、
家、を、出、出、して、而、後、天、下、を、ま、ち、ま、し、
一、男、田、島、新、女、新、續、織、男、八、田、島、織

耕一 耘り女の績減倍倍男女たふ人
 常の産更あまけり危一 ちたこの
 中が業と勤め励まひる一
 一 家統栄家のこの家徳を勤め富を
 一 屋を回一 貧乏よ裕一 意欲わけて
 一 子借家承一 親を助けを返して
 一 満室をぬめり子孫繁栄字あふ
 一 親を照 天理の正た公直の照鑑



子孟軻戀故鄉到親宅境竹節
孟母織機喚子孟軻尚云子所惡子
終辛子孟軻云未終答子孟母喚
取刀斷其織机机半一於羽日不
終此机未織相似半裁子孟軻
實依禮造次不急顛沛勤習

修事正務中て吾現此在云現をく
まはつゝ心三親の旨と曉一變庭
變照の中名の現お契ひ現正照とく
一法守此佛法と法たふ勇徳徳此
かして神明的の授佛の教く世この和を
別裁とせり程移とばけく其規
たふるるく。○愚攻絶
此をまひ諸悪を非程徳を貪れ

西郷公と書きたる大敵とと攻絶すべし
一欲新制 色欲財欲人慾の私を去り
天理の公を存すべし 或人云おしやれやと
昔らぬやよ今の世界が法理がよめよや
聖人おとちなくおの道あるべしといふこと
ありしと昔よふ心も神物とて思ふべし
半ハ心されとて是あり半ハ是
ありとは執たお削り捨てるべし

一弘法大師の心しう友を徳大長の心
うまはしく 考ふおひううなれいのまよ
いのまよの極まう又ハ作まれ三徳のこの
まよの界をんうるをすの字ハすめま
う又ハまのまようやりのまよたのん
片うなれスの字ハ徳のまよれ片うな
名を片うなと云ふハ又まよれ片う
してかくまよ武云ハハのハのまよハ

| | | | |
|---|---|---|---|
| 良 | 與 | 知 | 伊 |
| 牟 | 多 | 利 | 君 |
| 字 | 禮 | 奴 | 半 |
| 井 | 曾 | 流 | 仁 |
| 乃 | 圖 | 乎 | 保 |
| 於 | 年 | 力 | 立 |
| 久 | 南 | 加 | 徒 |

| | | |
|---|---|---|
| 也 | 安 | 宴 |
| 末 | 亦 | 地 |
| 少 | 赤 | 毛 |
| 不 | 勇 | 世 |
| 己 | 妙 | 須 |
| 江 | 美 | |
| 乃 | 忘 | |

片カナノニハ子ハハ蘭ヲラニト云ヒ
 氏中寸ノ玉フ
 幾
 志
 志

| | | | |
|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 魚 <small>い</small> | あ <small>あ</small> | 也 <small>や</small> | 良 <small>ら</small> |
| 比 <small>ひ</small> | た <small>た</small> | 末 <small>ま</small> | む <small>む</small> |
| 毎 <small>も</small> | 責 <small>せ</small> | 計 <small>け</small> | 亨 <small>う</small> |
| 世 <small>せ</small> | 由 <small>ゆ</small> | 不 <small>ふ</small> | お <small>お</small> |
| 也 <small>や</small> | 奴 <small>ぬ</small> | 己 <small>こ</small> | 乃 <small>の</small> |
| | 美 <small>み</small> | 衣 <small>い</small> | 於 <small>お</small> |
| | し <small>し</small> | と <small>と</small> | 久 <small>く</small> |

| | | | |
|----------------------|---------------------|---------------------|--|
| よ <small>よ</small> | ち <small>ち</small> | い <small>い</small> | 一 <small>い</small> ま <small>ま</small> 依 <small>い</small> 志 <small>し</small> |
| を <small>を</small> | 利 <small>り</small> | 乃 <small>乃</small> | |
| 忙 <small>い</small> | ぬ <small>ぬ</small> | 波 <small>は</small> | |
| 有 <small>う</small> | ぬ <small>ぬ</small> | 仁 <small>に</small> | |
| 周 <small>しゅう</small> | を <small>を</small> | 係 <small>けい</small> | |
| 福 <small>ふく</small> | 初 <small>はつ</small> | 豆 <small>まめ</small> | |
| 索 <small>さく</small> | 加 <small>か</small> | 七 <small>しち</small> | |
| | | と <small>と</small> | |



一 京の字数教ふといふり十億日一北十北日一京
 凡俗と通云北生京々生秘々生塚々生壤
 壤生潤々生正々生載々地不能載也
 和云正教ハ天地ハ元海々々々飲念
 腹中ハ飽海々々正教といふり
 又嗟^{せい}嗟^{さい}ハ悔^{さい}事不及^{さい}之^{さい}謂^{さい}在^{さい}傳^{さい}り
 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十
 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

の此志 於應尾 久具宮
 乃能農 於應尾 久具宮
 乃能農 於應尾 久具宮
 也屋谷末滿万計希介遣
 不婦布舞 己古胡衣 衣得
 不婦布舞 己古胡衣 衣得
 不婦布舞 己古胡衣 衣得

天互亭安阿案龙佐草
 寺起支暮由遊諭妙面書免
 幾起歧喜由遊諭妙面書免
 美見未之志至 慧宴盈衛
 美見未之志至 慧宴盈衛
 美見未之志至 慧宴盈衛

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 世 | 世 | 世 | 比 | 比 | ひ |
| 勢 | 勢 | 勢 | 飛 | 飛 | じ |
| 福 | 福 | 福 | 悲 | 悲 | せ |
| 守 | 守 | 守 | 母 | 母 | も |
| 寸 | 寸 | 寸 | 毛 | 毛 | も |
| 壽 | 壽 | 壽 | 毛 | 毛 | も |
| 須 | 須 | 須 | 崇 | 崇 | そ |
| | | | 衣 | 衣 | そ |

一 京 いあしうをくれ勢のハと様
 々ふ丸をふ自いゆるうを

一 かたハ各字のおまを有る訓を有る程なり
 一 勢ハハ各字に係及止の止の字訓の音と
 和訓の止と云とのうを有る用いてとよむ
 一 徒止の字徒の字ハ男を有る用いてとよむ
 一 二字同字なれば土と止と徒のちみれ
 一 男を有るともいけん
 一 七ついろはハ各字の取の字の音と
 一 衆と云和訓を用いてよむものうを有る

又ゆふぬらうありそのその 湖その 係その とも

一 中のし 訓の時ゆふかよひ

中をゆとよむハ中の元をかくへ

敬こえ 中ゆ 中ま 中こえ 中ま 中た 中なり

一 奥の及 訓の時がらうまふ用りなり

下ふかくハ 中ま 中た 中なり

一 木のな 訓の時下にかくまき

又訓のなまはしなふて二木の訓ふ

又ゆふぬらうありそのその 湖その 係その とも

又ゆふぬらうありそのその 湖その 係その とも

又ゆふぬらうありそのその 湖その 係その とも

一 はの字はハ中と下とみまはあとも

庭川い 祝い 思い 光い 中ま 中た 中なり

一 うの字はまよむはれ下うと引て

よむハはるうのまよ 東ま 冬ま 江ま 中ま 中た 中なり

訓よよむハはるうのまよ 又がまよむ時

幼盛子院の雀乃丁亥小はらて
たつ子 紙の歌考より黄鳥れ
血陽小止るふふもましあせ
人ありとりのさるふぶまきり
さりるんやと物あといひて
たおと如電しと口と禁て
妹を神おとるんものり

暮天者春服既成
冠者五六人童仆六
七人浴沂風舞
雩詠歸

持を

持を

